

## 令和4年度 大阪市北区地域支援連絡会議概要

日時:令和4年12月19日(月)午後2時30分~午後4時30分

場所:大阪市北区役所4階402・403会議室

概要:グループワーク

- ① 「多職種連携と顔の見える関係づくり」
- ② 「『気にかける』地域づくりの取組み」

## ① 「多職種連携と顔の見える関係づくり」

委員からのご意見

- 相談先や相談内容がわからない
- 繋がっている連携先に偏りがある
- 学校との繋がりが難しい
- 見守り支援のネットワークが作りにくい
- 窓口の一本化
- 多職種を知るために、事業所と人との交流が必要
- マンションセキュリティの問題
- 個人情報への壁
- 地域ごとの課題に対して身近なことから取り組むこと
- 企業との連携、コスト面・費用面での課題
- 福祉に携わる人材不足
- 最終的な目標は、地域包括ケアシステム構築

座長より

- 職種が違くと価値と倫理が異なる、共通認識ができていないと、連携までには至らない
- 目的は、「この人を何とかしないといけない」「この人を救わないといけない」ということ
- 地域福祉の連携には、“お互いを知る”“お互いを認める”“お互いを尊重する”こと
- 身近なところからスタートすること、目的・目指すべきところを共有すること
- 住民の立場は、その地域に住んでいるという専門性・プロフェッショナル
- 暮らしの場面での困り事・ニーズは、住んでいる人、暮らしている人が一番知っている
- 暮らしのプロフェッショナル、一番身近なところにいるプロフェッショナルは地域住民
- 多職種連携の中には、必ず地域住民が必要

## ② 「『気にかける』地域づくりの取組み」

委員からのご意見

- 認知症カフェ、百歳体操、脳活、子育てサロン、見守り相談室の支援ネットワーク
- マンションから出たくないという方にどう気づいて、どうやって引っ張り出せるか
- 地域の関係性の中で知りすぎてもやりにくい場合がある

- 対象に応じた発信方法を考えること(QRコード・掲示板・チラシ)
- マンション住まいの方は関係づくりや改善のきっかけが難しい
- マンション介入へのきっかけ作り(防災シート・防災訓練・AED講習)
- 小・中学校の校庭の活用
- 虐待が疑われても通報を躊躇してしまう
- ご近所情報が正しいとも限らない
- 子どもの有無や家庭環境など個人情報を知られなくないという気持ち
- 『気にかける』というキーワードの捉え方
- 挨拶をすることの重要性

#### 座長より

- 「大丈夫かな」「何か困っていることはないかな」という視点、気かけ合うこと
- 自分の目の前にいる人にどれだけちょっと気持ちを寄り添えるかということ
- 地域福祉は、対象が不明確にならざるを得ない
- 制度の狭間を救えるのが地域福祉であり、制度に引かからない人達も含めて、みんなを『気にかける』ということ
- 見守りは安心を得るためであるが、見方次第では監視と感じられる
- 気になる人がいる場合に連携が必要
- 大きな連携ではなくて、地域の中で支えあうための小さな連携が必要
- 連携によって、必要な個人情報を持つ地域住民の参加を促す
- 繋がり持っている人の輪を広げていく(芋づる式、スノーボール)
- 小さな連携を繋げ、アクセスし、考えることが結果として連携・協力・協働となる
- 挨拶は、自分を安全な人ですと伝えること、相手へのファーストコミュニケーション
- 最初は無視されますが、挨拶し続けることが大事
- 挨拶を交わす関係になれば、何かあったときに気づける関係のスタート
- 「何号室の何々さん、最近見ないな」という関係性がスタート
- やり続けること、小さな目標を作って、そこを一つずつ超えていくという作業
- 新任専門職は、暮らしのプロフェッショナルである地域住民に教わるのが一番
- 地域住民の方は、新しい専門職を指導してほしい
- 専門職の方は、地域の活動について資源という認識は、避けること
- 専門職のために地域活動をしているのではない

#### 今後の方向性

- ◇ あらゆる福祉課題や社会問題に繋がっている社会的な孤独・孤立を解消すること
- ◇ 孤独・孤立を解消するために連携すること、『気にかけて』いくこと
- ◇ まずは、お互いの仕事や役割を知り、認め、尊重し合うこと
- ◇ 推進会議で意識共有し社会的な孤立の解消のための取組・発信を促進していくこと